

韓国・釜山の 水事情について

4月23日から2日間、熊本市では「第4回アジア・太平洋水サミット」が開かれます！
出身地である釜山(プサン)の水事情について、「Q&A形式」でまとめてみましたので
皆様にご紹介いたします！

4月の「水サミット」もぜひご注目ください。



Q 釜山について、紹介してください。

A 首都のソウル特別市に次ぐ韓国第2の都市で、熊本市と友好協力都市である蔚山広域市の隣にあります。広域市とは、日本の政令指定都市のような概念で、人口100万人以上の大都市です。釜山では、韓国最大の規模と貨物取扱量の「釜山港」があり、古くから港湾都市として繁栄してきました。韓国戦争(朝鮮戦争)の時は、全国から寄せられてきた避難民を抱え込んだ都市でもあります。当時、臨時首都でもあった釜山は、ユネスコ文化遺産に「避難首都・釜山」登録を推進しています。実際に、港町ならではの綺麗な風景が見どころの釜山には、世界唯一の国連墓地や臨時政府庁舎など、避難都市の歴史を確認できる遺産がたくさん残っています。

日本とは下関市、福岡市、大阪市と交流を結んでいます。釜山は、韓国でも「開放的」「人情味がある」「情熱的」なイメージが強い街で、住民は観光客にも人懐こく親切に接するため、そこに魅力を感じる方が多いと言われています。実際に、韓国文化を紹介する国際交流会館の韓国カフェでは、そのような理由で、「釜山が好き、釜山旅行が楽しい！」という参加者の方にたくさん会いました。

このような釜山のキャッチフレーズは、『ダイナミック釜山』!単純でありながら、釜山の特徴を最もよく込めた表現だと、個人的には思っています。

年平均最高気温は約19度、最低気温は約12度であり、韓国国内では比較的暖かい地域です。夏は30度以上を上回ったり、冬は零度を下回ります。日本と同じように梅雨の時期があり、国内最高水準である年間平均2,300ミリ程の雨が降ります(熊本市は2,000ミリ程度)。釜山では熊本市のように雪は少ないですが、高低差が大きい地形なので、積雪量1cm程の僅かな雪でも降ったら、道路統制に入り、交通が麻痺することもあります。でも、その日だけは、老若男女を問わず無邪気に雪を楽しみます。



釜山のランドマーク「クワンアンデギョ(広安大橋)」-出典:韓国観光公社

Q 釜山の水の状況について紹介してください。取水源はどこですか？

A 釜山広域市の西側に「ナクトンガン(洛東江)」という川が流れており、周囲都市1,300万人の食水源として機能しています。ナクトンガンは、韓半島(朝鮮半島)で3番目に長い川であり、釜山広域市はこの下流に位置しています。



出典：釜山上水道事業本部HP(gallery)

ナクトンガン・メリ取水場



出典：釜山上水道事業本部HP(gallery)

ファミョン浄水場

このナクトンガンの2か所の取水場で、約340万人の釜山市民に賄われている水道水の9割を依存しています。あと1割は、釜山市内にある2か所の水源地を通して賄っており、浄水場は全部で4か所があります。一日生産能力は1,899,000t(うち、生活用水:1,547,000t)、一人当たりの1日使用料は290ℓです。上下水道の普及率は100%で、「釜山広域市上水道事業本部」が管轄しており、全国の食水源を管理する機関は「韓国水資源公社(Kwater)」です。

Q 水道水は飲料用の水として使われていますか？

A 釜山だけではなく、韓国では水道水に適切な処理がなされており、綺麗で安全な水ですが、実は水道水をそのまま飲んでいる人は少ないほうです。

その理由は、昔は河川水の水質管理が不十分であり、水道から色の着いた水や、嫌な臭いがする水が出てくることもあったのですが、そのイメージがまだ残り伝わっており、水道水をそのまま飲まない慣習として残っている傾向があります。

また、釜山の水源となるナクトンガンの上流に工業地帯があり、上流からの汚染を心配する住民も少なくありません。1991年、大きく話題となった汚染事故の「ナクトンガン・フェノール流出事件」は、釜山をはじめとするナクトンガンの下流の住民に水道水についての不信を抱かせてしまった出来事でした。

また、蛇口までの配管の汚れに対する懸念や、体に取り込む飲食物にはかなり気を遣う国民性も理由ではないかと思えます。

Q 飲料用の水はどうしていますか？

A 浄水器がない時代は、必ず沸かしてから麦茶やトウモロコシ茶にして飲んでいました。2021年、環境部(省)が全国161自治体の72,460人の世帯主を対象に実施した調査(複数回答)では、お水を飲むとき、「浄水器を通した水を飲む」が49.4%、「水道水をそのまま飲むか沸かして飲む」が36.0%、「ミネラルウォーターを購入する」が32.9%、「井戸水・地下水などを飲む」が1.2%でした。ちなみに、調理する時、「お茶やコーヒーに水道水を使う」は41.6%、「ご飯を炊くときや調理にも水道水を使う」が67%でした。

[補足] だいたいの家庭、公共機関、オフィスには浄水器(ウォーターサーバー)が設置してあります。定期的にフィルターの管理が必要であるため、主に、メーカーのレンタルシステムを利用しており、産業として成り立っています。温水・冷水はもちろん、氷が出る機能がついているものもあります。また、床に設置するするか、蛇口に取り付けるなど、様々なタイプがあります。



様々なタイプのウォーターサーバー

Q ミネラルウォーターの価格などは？

A 大量で買う時はネット通販がお得で、500mlで約350~950ウォン、2ℓで600~1,700ウォン(100ウォン=約10円)。コンビニやスーパーでは日本と変わらないくらいです。韓国国産でもブランドや販売先により値段が大きく変わり、やはり安い物を買う人が多いです。飲料水に使ってる費用は、4人家族で約45ℓを飲むと想定すると、水道水の料金と比較してミネラルウォーターは水道水の約2,300倍、浄水器は約730倍の費用が掛かりますが、それ程のお金を使うことになっても、水道水を飲料水として使わない人がまだ多いほうです。水道水(生活用水)と食水を別の概念として意識する傾向があるかと思えます。

Q レストランなどでの水は？

A 浄水器を通した水か麦茶・トウモロコシ茶などが無料で提供されおり、設置型の浄水器が置いてある食堂はセルフサービスも多いです。

Q 水道水に対して住民はどのような意識を持っていますか？

A 韓国語で、水道水は「スドンムル(수돗물)」、浄水器の水やブランド化・商品化された水は「センス(생수、生水)」といいます。「ミネラルウォーターは飲料水」、「水道水は生活用水」と認識している人が多い方で、食器や食材を洗う時は「スドンムル」、調理の最後の段階では「センス」を使う人も少なくありません。

前述したアンケート結果で、「水道水をそのまま飲むか沸かして飲む」と応答した人は、その理由(複数応答)で「便利だから」が79.3%、「経済的だから」が75.5%、「水質を信頼できる」が65.6%でした。満足度については、「満足」が69.5%、「普通」が27.3%でした。水道水の満足度をさらに高めるために改善すべきの制度・政策については、老朽化した水道管交替(27.8%)、水源の水質管理(27.3%)、浄水場施設の現代化が必要(11.8%)などと答えました。



Q 住民の意識を変えるためにどのような取り組みがなされていますか？

A 政府と水道事業者らも続けて努力しています。老朽化した水道管の整備を進めながら、水道管のスマート管理システム構築し、水道水の水質をリアルタイムで監視するよう取り組んでいくそうです。また、異物が混入した場合は、自動排出などの機能も揃えていく予定です。安全・安心な水であることを自治体が独自ブランド化して積極的にPRもしています。ソウルにも釜山にも独自ブランドがあり、ソウルは「アリス(아리수、ハンガン(漢江)の固有語)」、釜山は「スンス(순수、純粹)365」など、全国26都市で独自ブランドの水道水を生産しています。

Q 熊本に来てからの水道水に対する認識は変わりましたか？

A 熊本の水は綺麗で安全でおいしいと分かっていますが、長年の習慣もあり自宅では水道水を直接は飲まず、お茶(麦茶、トウモロコシ茶など)にして飲んでいきます。日本人は水=水、お茶=麦茶や緑茶だと思いますが、韓国人は水=麦茶やトウモロコシ茶(沸かした水を使った飲み物)もイメージします。過去に、初めて日本で生活した時は大阪でホームステイをしていましたが、ホームステイ先の家主から「お水飲む？」と聞かれ、沸かしたお茶か「センス」を貰えるイメージで「はい」と答えたら、蛇口からの水をそのままコップで渡され少しびっくりした記憶があります。決して大阪の水を汚いと感じているわけではなく、水道水をそのまま飲まないという長年の慣習によるものです。

Q 熊本の水の感想はですか？

A 「水の国」熊本の水の初印象は、「水不足」と「臭い」でした。えーどういことでしょうか！
実は、熊本に来た次の日、熊本地震があったため、しばらくの間は、水不足を経験しました。今の家に引越した後は、塩素消毒剤のような水の臭いが数日間続き、「地下水だと知っていたのに何で？」と思ったんですが、浄水場での処理など、地震の影響があったかもしれませんね。今は、蛇口から出る水をそのまま飲むこともたまにあります。まろやかで飲みやすいように感じています。

Q 来熊された韓国の方からどんな話を聞きますか？

A 今は市庁舎にも給水機が設置されていますが、「お水はどこで飲めるか(貰えるか)」をお尋ねされることが多かったです。韓国にはどこに行っても浄水器が置いてあるため、それをイメージしてしまうと思います。

Q トイレや入浴などの生活用水として使用される水の状況はですか？

A トイレや風呂などの生活用水には水道水が使われています。シャワーを浴びるのが主流ですが、週末はサウナに行って垢すりをしたり、バスタブにゆっくりつかれる習慣があります。韓国でいうサウナは日本の銭湯のようなイメージで、思いっきりお湯に浸かってリラックスします。そして、バスタブがある家もありますが、逆にバスタブを外してシャワールームに改造する人も多いです。マンションでは、通常、シャワールームが2室(バスルームとして1室、主寝室に1室)あります。

Q 熊本では一部再生水を使うトイレもあるが、多くが通常の地下水を使っています。釜山はですか？

A ショッピングモールのような大きな建物では、再生水を使うトイレがあるところもあり、再生水は薄い黄色をしているので、案内文が貼ってあります。再生水を使う施設は水道料金の減免制度があります。しかし、ほとんどが通常の水道水を使っています。

Q 韓国の水道水は日本に比べて硬水なので、洗濯を繰り返していくうちに黒ずんでくるとの聞いたことがあります。それを防ぐために服を煮沸すると聞いたが、実生活ではどうか？洗濯機に煮沸機能が付いているものもあると聞いたがどうですか？また、欧州では硬水対策のための洗剤があるようだが、韓国にもありますか？

A 一般人は、軟水・硬水についてあまり意識していないと思います。
煮沸はしますが、殺菌・消毒・汚れのためにしています。煮沸機能が付いた洗濯機はあります。「硬水による黒ずみ」については、正直に初耳です。硬水対策用の洗剤があることも、洗剤の中に硬水対策成分が入っているとも聞いたことがないですが、普段意識していないからかもしれません。周りにはいませんが、肌が敏感な人など、軟水器を設置して使っている人はいるらしいです。熊本の水を使いながらよく見れるカルキと黒ずみのような現象は、韓国では見たことがないですね。軟水・硬水の違いか、地下水ならではの成分なのか気になります。

Q 水に関して母国と日本の違いに驚いたことは？

A 韓国では、浴槽のお湯は家族でも共有しないため、お湯を共有する日本の文化について分かった時、驚きました！日本人の家に招かれて入浴した韓国人が、自分が入浴した後に浴槽のお湯を全部捨ててしまい、ホストファミリーを慌てさせたエピソードも多いです(笑)。韓国人としては、お湯を入れ替えて、綺麗なお湯を次の人に使ってもらおうという配慮だったと思います。

そして、韓国では、どこにでも浄水器が設置してあるので、浄水器の水を飲むことができますが、日本には少ないので、外出した時に水を飲める場所が少なくて困ったこともありました。今は、マイボトルがお出かけ必須アイテムになったんですけどね。

また、日本のトイレは浴室と別室にある乾式が多いが、韓国のトイレは、だいたい浴室と同室にある「湿式(システムバスタイプ)」です。床はタイルなどの濡れてもよい素材でできているので、トイレ掃除をする時、トイレに水をかけて洗います。日本の「乾式トイレ」を見たとき、「どうやって掃除するのだろう」と不思議に思いました。

Q 自国の水に関して、素晴らしいと感じるところは何ですか？

A きれいで安全な水をととても安い値段で使えることです。国産ミネラルウォーターは良質で、色々な場所に浄水器も設置してあるので、どこに行っても「水のため」困る状態がないですね。

Q 自国の水に関して、不便だと感じる場所は何ですか？

A 数人の現地の人に聞いてみたところ、「ほとんどない」という答えがありました。昔は不便だったところもあったんですが、それは釜山の地形と関連があります。釜山は山が多い地形なので、高い地帯に位置する住宅街が多いです。数十年前までは夜になると水を運ぶポンプが止まってしまい、24時間自由に水道を使うことができなかつたです。そのため、各家庭では、屋上に水のタンクを設置し、水が止まった時にはタンクの水を使うところが多かったです。住宅密集地域の各屋根に様々な色のタンクが設置されている風景は、他の地域の人にとって釜山の見どころでもありましたが、今はこのような不便や意図しない「名物風景」はなくなりました。また、冬には零下になることもあり、タンクの水をきちんと管理していないと凍ってしまうこともありました。水道管が凍ってしまい、破裂することは、冬が寒い韓国では、今も稀ではないことです。

Q 昔は不便であったかもしれないが、便利な今と比べると昔の不便な時のほうが「水のありがたさ」を感じたのではないですか？

A 特にそうは思わないですね。昔も今も水は変わらぬありがたい存在ですが、上水道管理システムの発達で、不便なく使えるようになった今が「水のありがたさ」をもっと感じます。

Q 母国の水を使ったことわざを教えてください。

A ○冷たい水にも上下がある (찬물에도 위아래가 있다)

水は誰にとっても必要不可欠なものですが、その水を飲む順番にも上下関係があるという意味。目上の人を敬う儒教思想から来たことわざです。

○夫婦けんかは刀で水を切るようなもの(부부싸움은 칼로 물 베기)

「夫婦けんかは犬も食わぬ」と同じ意味で、水を刀で切ってもすぐに元に戻ることから来たことわざです。

○水(川)を渡っていく=もう終わりだ(물 건너갔다)

ここで、水は川を意味します。川渡が簡単ではなかった昔は、川の向かい側は完全に違う世界で、憧れの対象だったかもしれません。機会を逃した時など、よく使われます。

ちなみに、水は大事な資源ですが、あいにく「水」を使った表現の中には、「珍しくない・易しい・無駄ごと」など、否定的な意味を込めているのが多いです。水は、どこにもあるもので、ほぼ唯一費用を払わないか最小限の費用だけ負担するものだったので、こういった表現が多いかもしれません。代表的には次のような表現があります。

○水を食べた(물 먹었다)

一杯食わされた、無駄なことをさせられたという意味。韓国語にも「飲む」という動詞があるが、このことわざではあえて「食べる」という動詞が使われています。

○水修能(물 수능)

韓国の大学入試センター試験の修学能力試験を短くして「修能(スヌン、수능)」といますが、難易度が低い場合は、「水修能(ムルスヌン、물수능)」といます。

ちなみに、難易度が高い場合は、「火修能(プルスヌン、불수능)」といます。2022年度のスヌンは、満点者が一人しか出てこなかった「プルスヌン」だったそうです！

A 水に関する簡単なフレーズも覚えて見ましょう。

○「水」 → 「ムル(물)」

○お水ください → ムル チュセヨ(물 주세요)

・冷たい水: シウオナン ムル (시원한 물)

・温水: タトウタン ムル (따뜻한 물) + チュセヨ(주세요)

・お冷: オルム ムル (얼음물)

○水が熱すぎます → ムリ ノム トウゴウオヨ (물이 너무 뜨거워요)

○水を節約してください → ムルル アッキヨ スセヨ (물을 아껴 쓰세요)